

ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

第56号

発行日 令和7年2月21日

発行者 根形交流センター
(根形公民館)

袖ヶ浦市下新田 1277

☎0438-62-6161

二十歳を祝う会を開催！！

令和7年1月12日(日)根形地区二十歳を祝う会を根形交流センター視聴覚室にて開催しました。当日は、44名の二十歳や保護者、恩師、来賓等が出席し、厳粛な中にも心温まる式となりました。

式典終了後の記念行事では、二十歳を祝う会実行委員企画・運営により、出席いただいた恩師からの祝辞、中学校の卒業の記録ビデオを流し、保護者も交えた交流会および集合写真の撮影を行い、中学校時代を懐かしみながら旧交を温めていました。

また、青少年相談員の協力のもと、例年の撮影用スポット設置に加えて、今年はガウラとソデリーが登場し、友達同士や保護者と一緒に笑顔で撮影している姿が印象的でした。

以下に、二十歳代表の言葉（抜粋）を掲載します。ご一読ください。

私達が根形中学校を卒業してから5年という月日が経とうとしています。長かったような、短かったような感じがしております。卒業の時から今までを思い返してみると、私たちが予想だにできなかった出来事によって、何とか執り行わせていただいた卒業式以降、急に引き離されてしまい、人との直接の関わりを制限されて過ごしてきました。高校に入学しても数か月の自粛期間を経て高校生活の始まりでした。目と目を見て温度を感じられる交流がなかった分、他の学年よりも増して小・中学校の同級生を懐かしんだのではないかと思います。高校生活が終わってからは更に枝分かれしたそれぞれの生活を営んでいるでしょう。そんなみんながこの式典を以って集うことができたのです。どんな「社会」を生きてきたのか、今どうしているのか、できる限りでよいので語り合えると幸いです。

私は現在大学に進学して教育について学んでいる最中です。小学校へ赴く実習も増えて、様々な場面で事あるごとに過去の経験を振り返って考える日々です。教育の目標に「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」とありますが、私の学んできたことを踏まえて大きくまとめると「自立」と「自律」ができていればよいと考えています。自分で生活していけること、人として目指すべき在り方をその通り目指すことです。つまり、あの何気ないと思っている生活すべてが、今の私たちを形作っているのです。

これから先に続くのは一人ひとり違う道です。ですが、今まであった全てのことは良くも悪くも私たちを結び付けてくれます。ふと思いついた時でも、どうしようもなくなった時でも支え合っていきましょう。未だ様々な人の、多くの支えあってこそ私たちですが、支えられてきた分、誰かを支えられるように精一杯生きていきたいと思います。

二十歳代表 藤原 大空 さん
※二十歳代表の言葉より抜粋

二十歳を祝う会 フォトメモリアル



粕谷市長のあいさつ



おめでとうございます



恩師との交流会



袖ヶ浦市二十歳を祝う会



二十歳代表挨拶の
藤原大空さん

司会進行の
大岩 快人さんと
花澤 璃桜さん



ねこまろ スタッフ募集中！

ねこまろがスタートして早11年。コロナ感染症による活動制限もなく、通常版の他、ペットボトルロケットや陶芸体験等の特別版も実施しています。これらの企画・運営にあたっては、N.O.C（大学生を中心とした若者のグループ）メンバーが大いに活躍しています！地域の子も達との体験活動をともにしてみませんか？

現在、N.O.Cメンバーを募集しています。興味関心のある方は、根形公民館に遠慮なくお問い合わせください。

サークル作品展を開催します！



3/15(土)～
3/23(日)



根形公民館で活動している「陶芸」、「絵画」、「書道」のサークルや公民館講座の教室生による作品展を多目的ホールにて開催します。技術と感性を磨いた1年間の創作活動の集大成は見応え充分！ぜひ足をお運びください。

※時間 午前9時～午後4時

根形地区地域防災訓練を開催しました！

2月2日（日）午前、根形交流センターにて「迫る災害に備えた地域住民の防災意識の向上や避難所設営に必要な知識・技術の習得、避難所運営に協力できる人材育成」を目指し、地域防災訓練を開催しました。8時30分に袖ヶ浦市全域で震度6の地震が発生したことを想定し、根形地区各自治会の役員、災害対策コーディネーター、社会教育推進員、職員など総勢68人が根形公民館に避難しました。

まずは、避難者カードに記入し、多目的ホールで避難所設営訓練として自治会ごとにダンボールベッドとパーティションを組み立て設置しました。その後、備蓄倉庫にある備蓄品などの説明を受け、講義研修室に移動して市災害対策コーディネーターの方々から避難所運営ゲーム（HUG訓練）の指導を受けました。

さらに、同時並行で各地区から1名を指定し、調理実習室で防災食となるご飯作りを実践しました。米と水をビニール袋に入れてお湯を沸かすパッククッキングによるご飯作り始めると、60分以内にご飯が炊き上がり、訓練参加者全員でご飯と防災用シチューの試食をしました。「ご飯が簡単に炊け、意外とおいしくできるんだ」といった感想が出ました。今回の防災訓練での経験が、災害時に役立つことを願っています。

なお、詳細を知りたい方は根形公民館までお問い合わせください。

避難所設営訓練



HUG訓練



パッククッキング



書き初め教室を開催しました！



12月26日（木）午前、根形交流センター視聴覚室にて、書き初め教室を開催しました。根形小学校の3～6年生の児童12名が参加し、根形公民館で活動している降矢玄龍先生と書道サークル「望陀書友会」「根形書友会」の会員12名が講師を務めてくださいました。

子どもたちは冬休みの課題として出された書き初めに真剣な眼差しで取り組み、講師のアドバイスをしっかり受けて、書く枚数を重ねるごとに上達していきました。

およそ1時間30分で書き上げた作品の中から、優れた作品を先生に選んでいただき、名前を書いて完成させました。どの作品も秀作でした。



袖ヶ浦生き物探訪 その④ 穴掘り名人！ニホンアナグマ

郷土博物館 水流^{つる} 拓馬

ある日のこと。「旧進藤家住宅の湯殿(風呂場)に穴が開いている」と、管理人さんから連絡がありました。現場に向かってみると、土間と床の境に直径 40cmほどの穴がぽっかりと開いていて、床下でも穴を掘ったような跡を見つけました。さらに庭園の木の根元を見ると、ここにも爪を立てて掘ろうとした跡があります。管理人さんによると、前日の昼間は穴がなかったそうで、犯行は夜に行われたようです。いったい誰が犯人なのでしょう？

推理は簡単です。「地面に大きな穴を掘る」、「夜行性」…この2つの特徴から、犯人はニホンアナグマで間違いありません。ニホンアナグマは体長 60 cmほどになる夜行性の中型ほ乳類で、「マミ」や「ムジナ」と呼ばれることもあります。白と茶色の毛皮とずんぐりとした体型、ブタのような長い鼻先にとぼけた表情がチャームポイントで、ゆるーい雰囲気魅力的な生き物です。里山やその周りの住宅地などに生息していますが、夜行性のためガタイが大きい割には人目につかず、身近にいるのにあまり存在を知られていません。



ニホンアナグマの剥製。展示するたび「カワイイ！」と大好評です。

ニホンアナグマ最大の特技、それは穴掘りです。鋭い爪と短く頑丈な手足を使ってモグラのように穴を掘り、「穴熊」の名に恥じない深くて長い巣穴を作ります。巣穴には複数の部屋と出口があり、昼間はここに潜んでいるほか、冬は冬眠のための寝床として使っています。穴の住み心地の良さは折り紙付きのようで、古い巣穴がタヌキやキツネに使われることがあります。(これと同じように、キツツキが掘った巣穴はよく他の小鳥やモモンガなどに再利用されます。楽しいいい家に住めるなんてうらやましい話ですね。)また、巣穴のための深い穴だけでなく、餌を探すために浅い穴を掘ることがあり、餌が多い場所ほど穴の数が増えることが知られています。旧進藤家住宅で見つかった穴は浅く、その後に新しい穴が見つからないことから、餌探しのために一時的に掘ったか、もしくは住み家にするつもりで掘り始めたものの、気に入らずに途中でやめてしまったのかもしれません。

旧進藤家住宅での一件の後、他にも巣穴があるのかな？と思って博物館の周りを調べたところ、本館とアクアラインなるほど館の軒下で1つずつ発見しました。アクアラインなるほど館の巣穴は浅く半分ふさがっていましたが、本館のものは深く奥行きがあり、入口の周りに堀くずがたまっていたので、現役の巣穴だと考えられます。建物側に掘り進んでいるので、本館の下はニホンアナグマの住まいになっているのかもしれません。あまり穴を広げられると建物の支えが弱くなるので、ほどほどにしてくださいね、アナグマさん…。

「袖ヶ浦生き物探訪」シリーズは今回で終了となります。次回の新シリーズもお楽しみに！